

# 国語科の実践

教科担当者 福原裕之

日原大輔

## 1 めざす生徒像

- (1) 「響く声」「達意の文章」「読む・聞く・分かる」「言葉を動かす」力を身に付けた生徒
- (2) 言葉を通して課題に迫り、理解しようとする生徒
- (3) 考えたり、感じたりしたことを「分かりやすく」「豊かに」表現しようとする生徒

## 2 研究内容と実践例

- (1) 研究内容 より

### ペア、グループ学習活動の積極的な取入

形態の工夫、グループの人数の工夫、グループ内での役割の工夫など、学習内容に応じたグループ学習を工夫し、グループ内での評価が、次のグループ活動に生きるよう、工夫する。

- (2) 研究内容 より

### 生徒の興味・関心を高める指導内容の工夫改善

視聴覚教材等を活用して、美しい日本語を読む、聞く、味わう能力を育成するとともに、「ことば力テスト」を毎週実施することにより、語彙力や表現力の伸長を図る。さらに日本語の担い手として自ら考える力を養う。

また、「百人一首」の暗唱や「カルタとり大会」などの実施を通して古典文学に対する親しみ・興味を深めさせる。

始業前の読書タイム(読書週間)の設定、夏季休業中の必読図書の指定、「選択基礎」での「読書」などを実施する。校内での「作文コンテスト」「読書感想文コンテスト」なども実施に向けて検討する。

自分の考えを文章としてまとめ発表する力、表現力、プレゼンテーション能力などの伸長を図る。詩・短歌・小説などの創作活動を実施するとともに、言語学・記号論・比較文学などにもふれさせ、日本文化及び異文化に関心をもつ態度を養う。

## 3 成果と課題

- (1) 毎時間、グループ学習活動する場面を設定し授業を行っていった結果、開始当初は戸惑いのあった生徒たちも、年度末のアンケートでは「グループ学習活

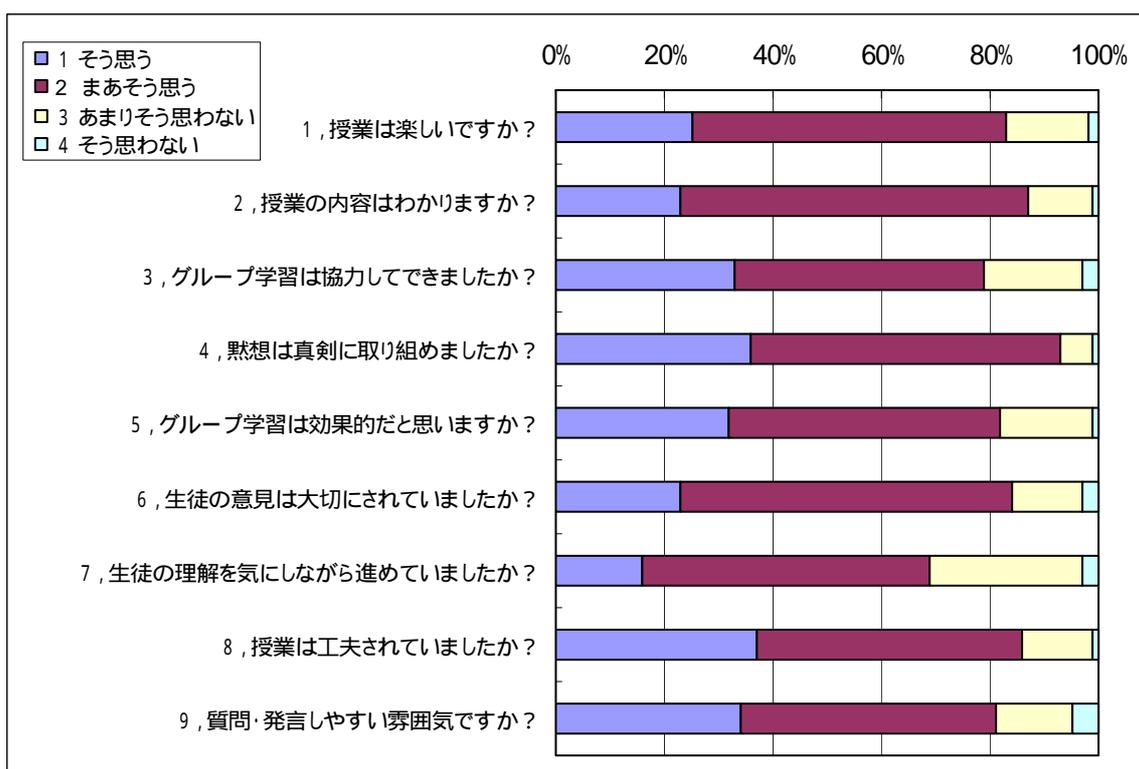
動は協力してできましたか？」という問いに対して全体の80%近くが「そう思う」「まあそう思う」という肯定的な回答をするようになった。

少人数(2~4人)のグループの中で意見の交流をし、賞賛し合い、お互いの考えを共有するようにしたことにより、多くの生徒が達成感を味わうことができ、自信をもつことができるようになった。

また、そのことが「授業が楽しいか」とか「内容がわかるか」といった項目のプラス評価にも反映されており、結果として「グループ学習は効果的だと思いますか」という問いに対する、80%を超える肯定意見につながっている。

- (2) 毎時間の授業の導入時を大切に考え、1時間ごとの学習の流れや課題を提示したり、その時間の授業内容に応じた様々な“モノ”を用意したりするなど、生徒の興味・関心を高める工夫をした。

さらに生徒にとって身近で、興味・関心をもち、さらに指導目標が達成できるような教材が望まれる。そのために、教科書教材のみに頼らず、新聞やテレビ、あるいはCDなど、新しい教材の開発にさらに努めていきたい。



(全校生徒対象：2007年1月実施)